

①最先端の手術支援ロボット「ダビンチ」
 ②ストレッチャーが並ぶ救急初療室=いずれも岡崎市針崎町で



地域の救急医療の要となる藤田医科大学 岡崎医療センター



岡崎市針崎町の藤田医科大学岡崎医療センターが七日、開院する。最先端の医療設備を兼ね備え、二十四時間二百六十五日、患者を受け入れる二次救急病院だ。

救急搬送患者を受け入れる救急初療室、手術支援ロボット「ダビンチ」、全身のがんを調べる断層撮影装置「PET-CT」、血管造影室と手術室の機能を兼ね備え心筋梗塞や狭心症など

7日開院 藤田医科大学岡崎医療センター

救急 責任と誇り胸に



の治療で患者の負担を軽減する「ハイブリッド手術室」。今後も人口増が見込まれる岡崎市、幸田町を中心とした医療需要にこたえる。

四日の内覧会では、ダビンチを実際に動かすなど、最先端の医療設備を披露した。病床四百床のうち、特別室を含む個室は百八床。ベッドマットの多くに、幸田町に主力工場がある寝具メーカー「エアウィーヴ」の製品を導入した。

大きな窓から差し込む光は白い壁に反射し、院内は清潔感にあふれる。地域住民や地元の医療関係者にとって、待望の大学病院。この地域の救急医療の一翼を担うというセンター関係者の言葉に、責任感と誇りがにじんだ。

写真・吉岡 広喜
 文・四方さつき



③広々としたエントランス
 ④ゆったりとした間取りの特別室